

評価規準/方法の基本的な考え方

以下の点に留意し、評価規準の設定をすること

①指導事項・指導領域・評価の焦点化が見られるか

ア 年間指導計画を作成し、その単元で指導すべきことを明らかにする

※限られた時間数の中で、指導すべきことを過不足なく指導する

イ 何の力を付ける単元かがはっきりとしている方が、教えやすく、学びやすい

ウ 効果的で、実行可能な評価方法をとる

②単元・指導過程・本時の評価規準に整合性があるか、また、本時の評価規準及び評価方法は適切であるか（言語活動の特性等を踏まえ、「おおむね満足できる」状況が具体的に想定されていたか）

ア どんな姿を表してほしいか（＝概ね満足できる状態）

イ いつその姿を把握するか（＝何時間目のどの活動のときか）

ウ 何によってその姿を把握するか（＝ポイントを絞る）

③「C 努力を要する状況」の児童生徒への指導や支援は有効であるか

ア 「C」の児童生徒がいたらどうするか（＝Bに達しているかどうかで判断）